



「サムールデルタにおけるマングローブの持続的 management 強化プロジェクト」のワークショップで、生活向上のための活動について話し合う住民たち

実践! ★★★★★ 人間の安全保障

地域住民の 能力強化を

サハラ砂漠の最西端に位置するセネガルでは、都市と地方間の格差是正が大きな課題だ。JICAは地域住民が主体的に村の開発にかかわり、村を持続的に発展させられるよう、同国政府とともに住民の視点を中心に据えた支援を展開している。

セ

セネガルは1995年以降、常に5%以上の経済成長率を維持するなど順調な発展を見せていますが、一方、都市と地方の間で拡大する貧富の格差が深刻な問題となつていきます。

セネガルでのJICAの協力は、給水、教育、保健衛生、農・漁村開発振興の分野に重点を置き、いずれも地方に暮らす地域住民の視点を中心に据えて実施されています。これは、常に逼迫した国家財政を抱えた中央政府に頼り切った開発では持続性が確保できないという過去の深い反省に基づいていると思います。地域の持続的な成長のためには、行政と住民それぞれの役割を明確にすることが大切です。行政側は住民の能力強化を促す体制づくりを、住民は自分たちでコミュニティを活性化させていく力を付ける必要があります。

それを実践したのが、「安全な水とコミュニティ活動支援計画（PEPTAC）」（2003～06年にフェーズ1、06年からフェーズ2を実施中。本誌6ページ参照）です。これまでに日本が無償資金協力によって給水施設を支援したサイトで、住民が利用者水管理組合（ASUFOR）を立ち上げ、行政と民間業者と連携しながら、自ら給水施設の維持管理を行う仕組みを確立してきました。ASUFORの運営を通して築かれたネットワークを活用し、野菜栽培や畜産、保健・衛生教育など生活向上に向けた活動も始まっています。こうした取り組みはほかのコミュニティにも広がっています。

また、伐採や過放牧などによって劣化している森林の回復と適切な管理を目指す「総合村落

林業開発計画（PRODEFI）」や、雨量の減少や伐採で減り続けるマングローブを守る「サムールデルタにおけるマングローブの持続的 management 強化プロジェクト」でも、成果の持続性を保つため、住民の能力強化に主眼を置いています。

例えば、PRODEFIでは、生活向上のための活動を日本人専門家が行うのではなく、研修ワークショップを広く公開して、村の人々自身が興味のある活動を選んで実施する形をとっています。

プロジェクトを進める中で住民は新しいことに挑戦し、困難に直面することもありますが、かつてのように「政府がやってくれない」「仕方がない」とあきらめる姿はもう見られませんが、行政と住民が真に連携し、「コミュニティレベルで問題を解決していこう」という機運が高まっています。

住民の能力強化を図ることは、単に所得向上のための技能を身に付けるだけでなく、コミュニティとして団結し、外からの脅威や恐怖に對して健全な抵抗力を持てるようにもなります。ひいては紛争予防や平和構築の実現にもつながると思います。

また、セネガル事務所では、中西部アフリカ地域支援事務所とともに、周辺国であるモーリタニア、ガンビア、マリ、ギニア、ギニアビサウ、カボベルデでも住民の能力強化に向けた支援を行っています。アフリカの中で高い経済成長率を維持し、主導的役割を果たすセネガルで成果を収めることは、近隣国にも大きな希望をもたらすことになるのです。